



本校の伝統行事「きくまつり」。この日は、開校を祝う会、菊の子汁作り、菊の鑑賞会、風船上げと、盛りだくさんの一日になります。

開校記念日が11月6日です。開校を祝う会では、毎年卒業生の方に依頼して、講演をしていただきます。今年は、52回生で、ドクターになられた北村さんに来ていただきました。小学校時代の思い出や将来の夢、そして現在の仕事についてお話を伺うことができました。パイロットへの夢を持っている子はもちろんですが、興味を抱いた子も多かったようです。

次に、菊の子汁作りです。この日をめざして、生活団（学年縦割りグループ）で野菜を育てます。「みんな、野菜いっぱい菊の子汁になるように、畑の水やりをがんばろうね!」と、6年生が声をかけます。菊の子汁とは、一般的な豚汁ではありますが、きくまつりに作るその鍋のことを「菊の子汁」と呼んでいるのです。中に入れる野菜はもちろん学校で採れた作物のみ。そうです。菊の子にとっては特別な思いのこもった一つの鍋なのです。野菜を切る係は〇〇さん、火をおこす係は□□君、と分担して、生活団ごとにおいしい鍋を作ります。味は、生活団ごと随分違うようですが、皆声を揃えて「うちの団が一番おいしいよ!」と言っています。

菊の鑑賞会では、これまで育ててきた一人一鉢の菊を観賞します。小学生が作るのですから、なかなかうまくはいきません。中には途中で枯れてしまう菊もあります。大切なのは、どんな気持ちで育ててきたのか、ということです。その思いをみんなの前で一人ずつ話し、それを聞くのも鑑賞会で大切にしています。学年ごとに、思いがあって、それをふりかえることは、自分の成長についても見つめられるはず。にぎやかな菊の子汁づくりの後の、しっとりとした素敵なひと時です。

最後には、風船上げ。この風船には一人一人の願い事が書かれています。願いが天まで届くように、一斉に上がる様は圧巻です。そして数日後、学校にお便りが届きます。「小学生の夢を見て、日本の将来が楽しみになりました。」という方もいらっしゃいました。菊の子の夢が更に広がります。